

## I. はじめに

- なぜ日本人は、三陸大津波・阪神淡路大地震のような時でも、略奪・暴動が起きなかったのか？
- なぜ日本人は、「税金をとられる」と言いながら、税金の使い道には「鈍感」なのか？  
⇒日本人は、「社会」「お上(政府)」を「信じている」のではないか？  
だとしたら、その理由は？

## II. 「公」とは？

- 日本的「公」…「官」と「家」(“public(-private)”とは違う)  
(公=正、私=邪、public は private を補完、ex.公園、パブリックスクール)
- 80年代辺りから、急速に日本的「公」は崩れてきた。  
公企業の民営化、日本的経営(減私奉公の対象たる「家」)の否定・崩壊

## III. 日本社会における「公」の変容

- 「官」・「家」から「open(開)」・「common(共)」へ  
個人主義(自由と平等)がもたらす。欧米型に。  
近年の「裁判員制度」「(病院の)セカンド・オピニオン、インフォームド・コンセント」「情報公開」「外部取締役」  
など等(市場・株式会社も open が要請される)。

## IV. 「公(社会)」に対する「信頼」の形成過程

- ① 京都朝廷(公地公民)から鎌倉幕府(開拓農民=百姓=人民)の政府へ
- ② 戦国大名の正当性は「領民のための政治」cf.守護大名は「政府」から統治権を付与
- ③ 江戸時代(信長以後)、統治者(支配者)たる武士は地主ではない！  
土地所有=富を基礎・背景とした他国の「支配者」たちと違う  
⇒以上、800年以上の歴史の積み重ねが、「信頼」を形成してきたのでは…。  
cf.「契約社会」は相手を信頼していない。

## V. おわりに

- (日本的)公を崩している「自覚」も崩そうとする「自覚」もないのでは？  
(ex.東日本大地震のあと、「自粛ムード」に対する「批判」)
- 社会や政府に対する「信頼」が減じているだが、「そのかわりの”生き方”(自己責任?)」は？  
「公」に対する信頼の低下・崩壊(年金制度、公務員改革など)は人々の不安を生んでいる。  
日本はまだ相対的には十分「豊か」であろうが、その「豊かさを実感できない」理由の一つではないか？  
欧米型「公/私」に変革してゆくのか？新たな日本型「公/私」を模索するのか？

### 《参考資料》

- 三戸 浩 「近年の日本企業の変革・変容と『公』の変容」『公益学研究』Vol.7,No.1
- 三戸 公 『「家」としての日本社会』有斐閣、『公と私』未来社
- 佐々木・金 『公共哲学3：日本における公と私』東大出版会  
〃 『公共哲学4：欧米における公と私』 〃
- 山岸俊男 『安心社会から信頼社会へ』中公新書
- 司馬遼太郎 『この国のかたち』文春文庫  
〃 『箱根の坂』講談社文庫
- 井沢元彦 『逆説の日本史』小学館文庫
- 渡部昇一氏、堺屋太一氏などの「歴史もの」